

学都仙台に文理融合の知の拠点

東北学院大学

五橋キャンパス竣工

TGUリングで交流の場を創出

学校法人東北学院(原田善教理事長)が整備を進めてきた「東北学院大学五橋キャンパス」が竣工した。

「東北学院大学キャンパス整備計画(大学アーバンキャンパス計画)」の第2期計画として、仙台市五橋地区にある市立病院跡地に仙台市泉区の泉キャンパスの学生と多賀城市の多賀城キャンパスの学生が移転する大学キャンパス(五橋キャンパス)を建設。自由度と機能性を備えた講義棟、多様化する教育メゾットに対応したシュネーダー記念館(高層棟)、教育・研究のシナジー効果を生む研究棟のほか、礼拝から市民交流など多目的な施設を集約した押川記念館(ホール棟)、駐車場棟を整備した。

これら複数の建物を2階の渡り廊下(TGUリング)でつなぎ、回遊動線を作り出すことで、文理問わず学生同士のコミュニケーションの輪を広げる都市型キャンパスがここに誕生した。



まちと学生の賑わいもたらす 新たなランドマーク



ごあいさつ
学校法人東北学院理事長 原田 善教

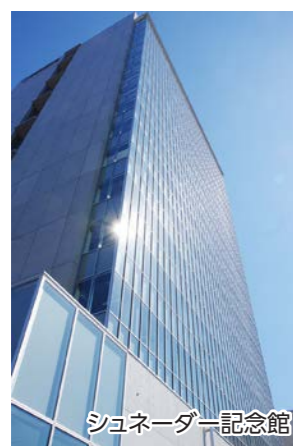
仙台の地にあって136年の歴史と伝統を有するキリスト教学校としての東北学院に新たな歴史の1ページが開かれました。東北学院大学五橋キャンパスの完成です。「知の拠点」としての大学は地域社会との関わりなしに存続することはできず、その意味で大学は「地の拠点」でもあります。つまり、「大学は地域の財産であり、地域は大学の財産」であるのです。五橋キャンパスは従来の土樋キャンパスと併せて1つのキャンパスとして一体的に運用し、地域社会との交流・連携を踏まえて知(地)の拠点としての大学を一層発展させていく契機になるものと確信しています。また、そこで学ぶ学生たちもまさに「ゆたかに学び 地域へ 世界へ」と活躍しその才能を開花させていくことになると期待しています。さらに、五橋キャンパスにはさまざまな施設面での工夫が施されていますので、地域の皆さまも大学のさまざまな取り組みに積極的に参加され新キャンパスを体感されて、東北学院大学との関係を深めて頂きますよう、お願いいたします。



ごあいさつ
学校法人東北学院院長 / 東北学院大学学長 大西 晴樹

五橋キャンパスの完成により、土樋・五橋地区「都心型ワンキャンパス」が実現し、東北学院大学の教育研究は大きく変わります。文理融合の象徴である数理・AI・データサイエンス教育に力を入れます。また新キャンパスの利点を生かして、地域と共創する大学を掲げます。「未来の扉センター」を開設し、地域の企業や自治体との間の産学連携やインターンシップ、NPO、福祉施設、商店街との間のボランティア活動を進め、社会貢献を目指します。

現在大きく変化している時代の要請や地域の課題に応えるために、4学部5学科を開設します。「地域総合学部(地域コミュニティ学科・政策デザイン学科)」、「情報学部(データサイエンス学科)」、「人間科学部(心理行動科学科)」、「国際学部(国際教養学科)」(いずれも8月下旬に設置届出が受理)です。聖書に「新しい酒は新しい革袋に盛り」(マタイによる福音書9章17節)という言葉がありますが、新しい東北学院大学の教育研究にご注目ください。



シュネーダー記念館



押川記念館



講義棟



研究棟

建築概要

- ◆建築主 学校法人 東北学院 理事長 原田 善教
- ◆所在地 宮城県仙台市若林区清水小路3番1ほか
- ◆用途地域 商業地域
- ◆防火地域 防火地域、準防火地域
- ◆その他の地域地区区分 都市計画区域、市街化区域、駐車場整備地区、水質保全区域、合流処理区域、景観計画
- ◆主要用途 学校(大学)
- ◆敷地面積 17,557.15㎡
- ◆階数/構造 押川記念館(ホール棟): 地下1F・地上5F/RC造一部SRC造
講義棟: 地下1F・地上7F+PHF/S造
シュネーダー記念館(高層棟): 地下1F・地上16F+PHF/S造一部SRC造、CFT造
研究棟: 地下1F・地上8F+PHF/S造、RC造
駐車場棟: 地下1F・地上2F/S造、RC造
- ◆延床面積 65,096.24㎡
(内訳) 押川記念館(ホール棟): 5,993.64㎡
講義棟: 18,530.17㎡
シュネーダー記念館(高層棟): 18,050.57㎡
研究棟: 20,207.67㎡
駐車場棟: 2,247.98㎡
駐輪場1: 22.07㎡
駐輪場2: 22.07㎡
駐輪場3: 22.07㎡
- ◆建物高さ 73.450m(高層棟最高高さ)、3.041m(駐輪場1~3)
- ◆工事期間 2020年5月~22年9月
- ◆設計監理 株式会社 佐藤総合計画
- ◆施工 竹中・銭高・橋本・仙建特定建設工事共同企業体

設計メモ

東北学院大学五橋キャンパス竣工おめでとうございます。
東北学院大学は、教養教育型の総合大学としての魅力を発揮するため、伝統ある土樋キャンパスと新たな五橋キャンパスが「1つのキャンパス」となります。学部学科を仙台の中心部に集約することで、学生・教職員のさまざまな交流を生み出し、学部仙台の新たな交流拠点として、市民にも開かれた地域と共創する「土樋・五橋アーバンキャンパス」を目指しています。
私たちは、この構想を受け、新しい五橋キャンパスが学院生の新しい感性や時代の要請に応え、多様な学問やプログラムに対応できる持続性と可変性を備えた場となり、学院生や市民の好奇心と向上心を刺激するさまざまな学びと交流が生まれるキャンパスとして設計を行いました。
新五橋キャンパスの大きな特徴の1つはキャンパス全体をひとつにつなぎ、学院

生や市民の学びと交流を広げ「知」を育む「TGUリング」を中心広場に据えたことで、「TGUリング」は、講義棟・高層棟・研究棟・ホール棟の4つの建築をつなぎ回遊性を高める歩廊で学院生や教職員が移動しながら対話や交流を行う場所となります。この「TGUリング」に面してライブラリー・モンスや各棟のラウンジ、ホール棟のホワイエなどの活動空間が面するように配置することで、学院生同士のコミュニケーションを誘発し「文理融合」による相乗効果を生み出す仕組みを考えました。
また、「都市型キャンパス」となる五橋キャンパスは、東北学院の知的シンボルが都市に顔を見せるデザインとしています。高層棟は、学部仙台の南側玄関口の新たなランドマークとして上昇感を感じる縦ラインを強調した外観としました。講義棟と研究棟は、教室や研究室の窓をリズム感のあるパターンで表現し、高層棟の縦ラインと調和させることで1つの群として感じら

れるデザインとしています。キャンパス中央のパイプオルガンを有するホール棟は、こう配屋根と装飾を省いたシンプルなコンクリート打ち放しの外観とし、礼拝(祈り)堂としても学院生の感性に響き、都市の魅力を高めるデザインとしました。
竣工に際しまして、今までご指導いただきました東北学院の皆さまや建設に関わられた全ての関係者に御礼を申し上げます。
株式会社 佐藤総合計画東北オフィス
副代表 飯柴 耕一



TGUリング

施工メモ

五橋キャンパスの竣工おめでとうございます。
これまでさまざまなご協力を頂戴しました。建築主の学校法人東北学院ご関係の皆さまならびに設計監理者の株式会社佐藤総合計画の皆さまをはじめ、ご近隣の皆さまや関係諸官庁の皆さまに心より御礼申し上げます。
施工に当たっての課題は搬入車両調整と工程の標準化と効率化でありました。建築地は仙台市内の中心、地下鉄南北線五橋駅に隣接し、前面は交通量の非常に多い幹線道路に面しており、敷地東側の市道東七番丁通りは一方通行かつ通学路ともなっていることから、解体工事中から原則工事車両の搬入を行わないことで工事を進めました。
施工計画では敷地中央の駐車場棟を先行して施工することで搬入動線を確保しました。駐車場棟の工事を完了した後に研究棟、シュネーダー記念館(高層棟)の

施工を進め、講義棟は資材ヤードとして活用してから施工に着手することで各棟の作業量のピークをすらしながら施工を行うことに成功し、車両や作業員の標準化を行うことができました。
さらに、車両台数を減らすことを目的に場外の物流倉庫を賃貸し、集合混載を行うことで各棟への材料をジャストインタイムで搬入する試みにも取り組みました。この取り組みでは、車両台数の削減はもとより効率的な運搬の実施によりCO₂削減も達成でき環境への配慮も行うことができました。
作業の効率化を進めるために押川記念館(ホール棟)における大空間の施工に際して、BIMを活用し部材の干渉などを事前に検証することで、手戻りの無い作業を行うことができたほか、シュネーダー記念館(高層棟)ではカーテン

ウォールの取付において東北エリアで初の工法であるモルタル工法を採用するなど生産性の向上を図りました。

結びに、来年4月から五橋の学び舎での授業を楽しみにされております在学生の皆さまや、ご関係の皆さまに謹んでお慶び申し上げます。ここ五橋を含むアーバンキャンパスから新しい時代を切り開く人財が世界に羽ばたかれることを祈念いたします。
竹中・銭高・橋本・仙建特定建設工事共同企業体
作業所長 砂川 信介



設計・監理

株式会社
AXS 佐藤総合計画

代表取締役社長 細田 雅春
執行役員東北オフィス代表 早川 謙二

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1
TEL.022(261)7511

施工

想いをかたちに 未来へつなぐ

TAKENAKA

執行役員 東北支店長 鈴木 一巳

〒980-0803 仙台市青葉区国分町3-4-33
TEL.022(262)1711

銭高組

理事東北支店長 日野 健一

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-7-17
TEL.022(261)3431

夢、かぎりなく。

HASHIMOTO 144周年
総合建設業 創業明治11年 144周年

株式会社橋本店

代表取締役社長 佐々木 宏明

本社/〒980-0822 仙台市青葉区立町27番21号
TEL.022(714)7020

人に、街に、大地に。

仙建工業株式会社

代表取締役社長 中村 知久

本社/〒980-0811 仙台市青葉区一番町二丁目2-13
TEL.022(225)8511